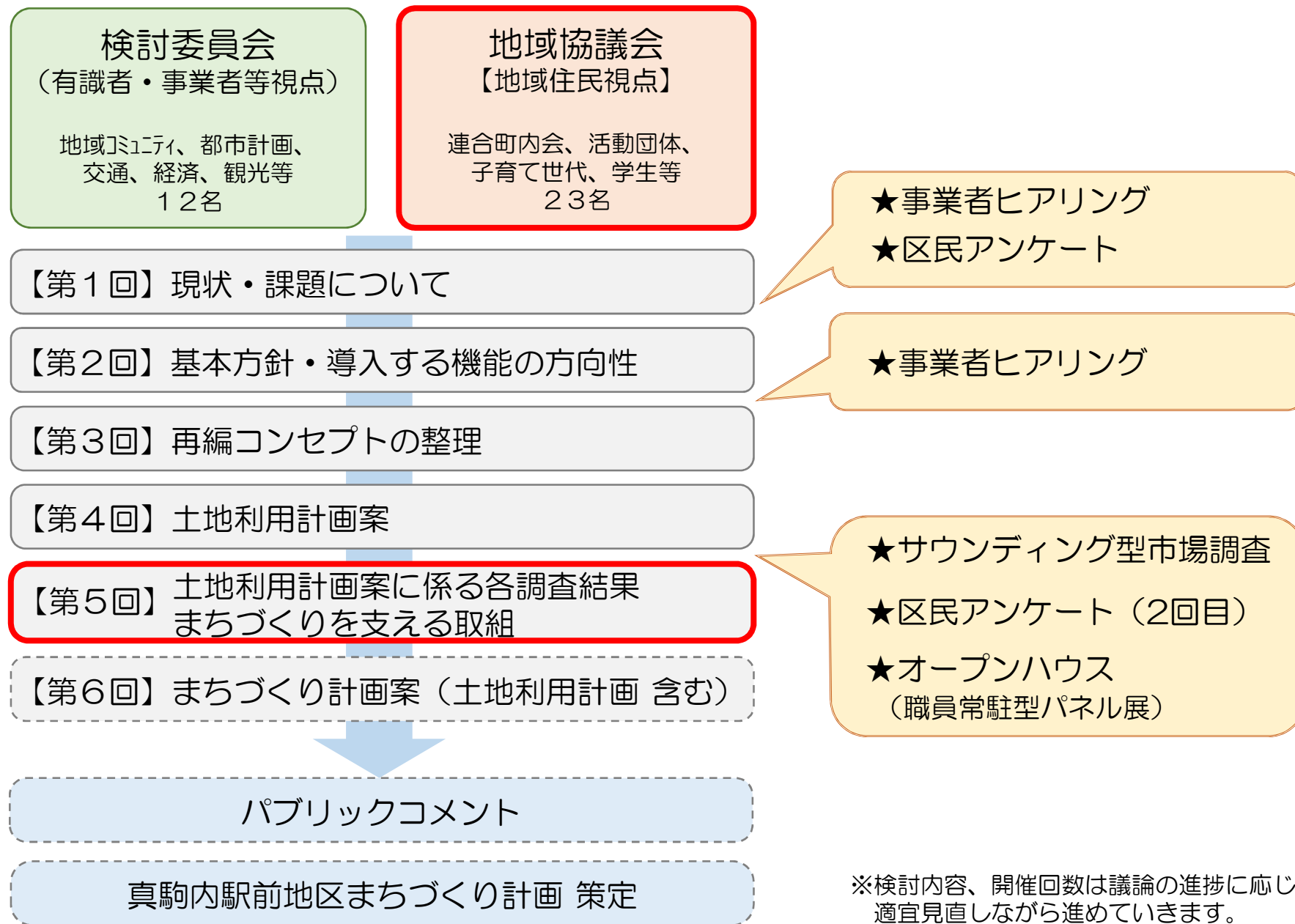
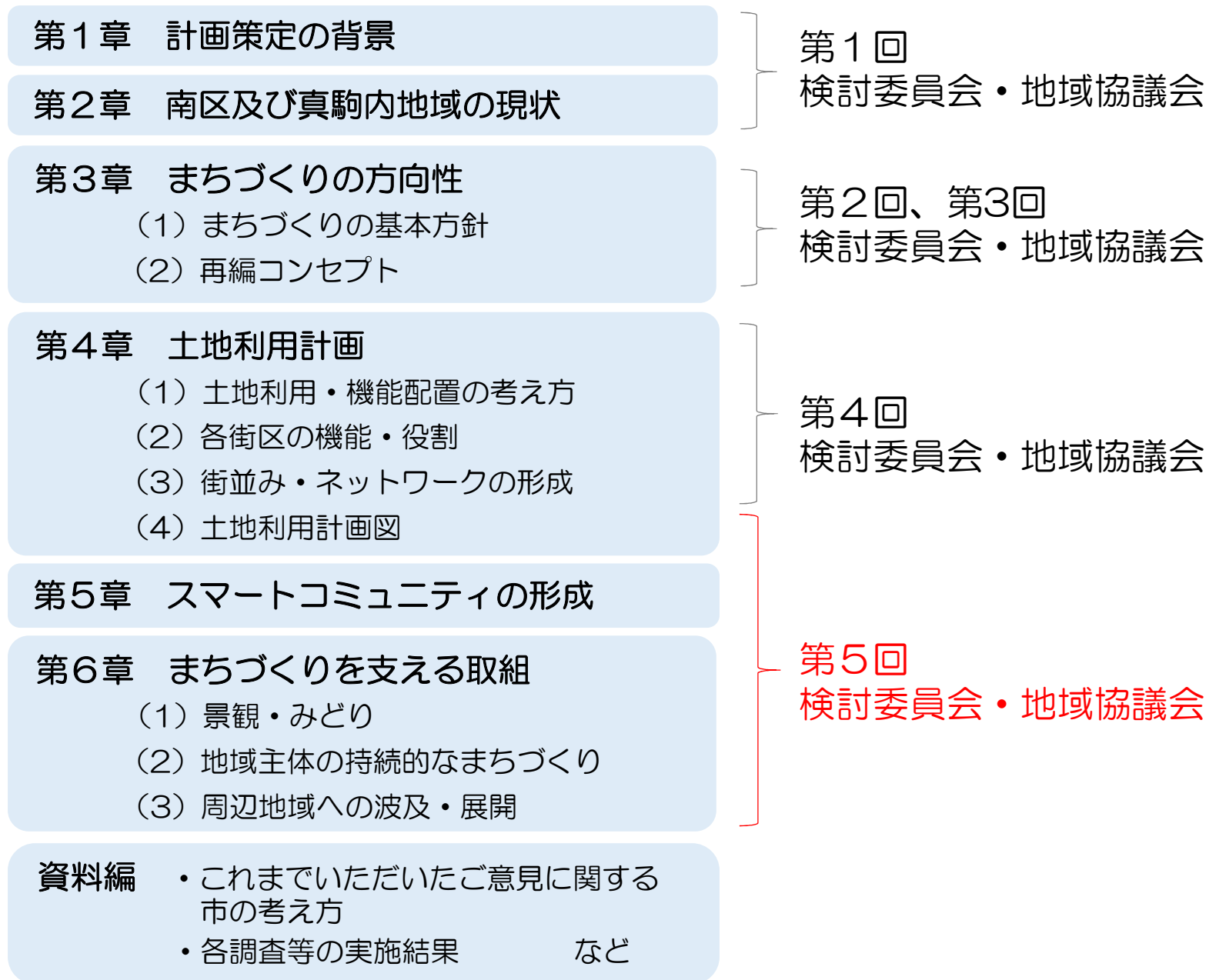


真駒内駅前地区のまちづくり

第5回 真駒内駅前地区まちづくり地域協議会

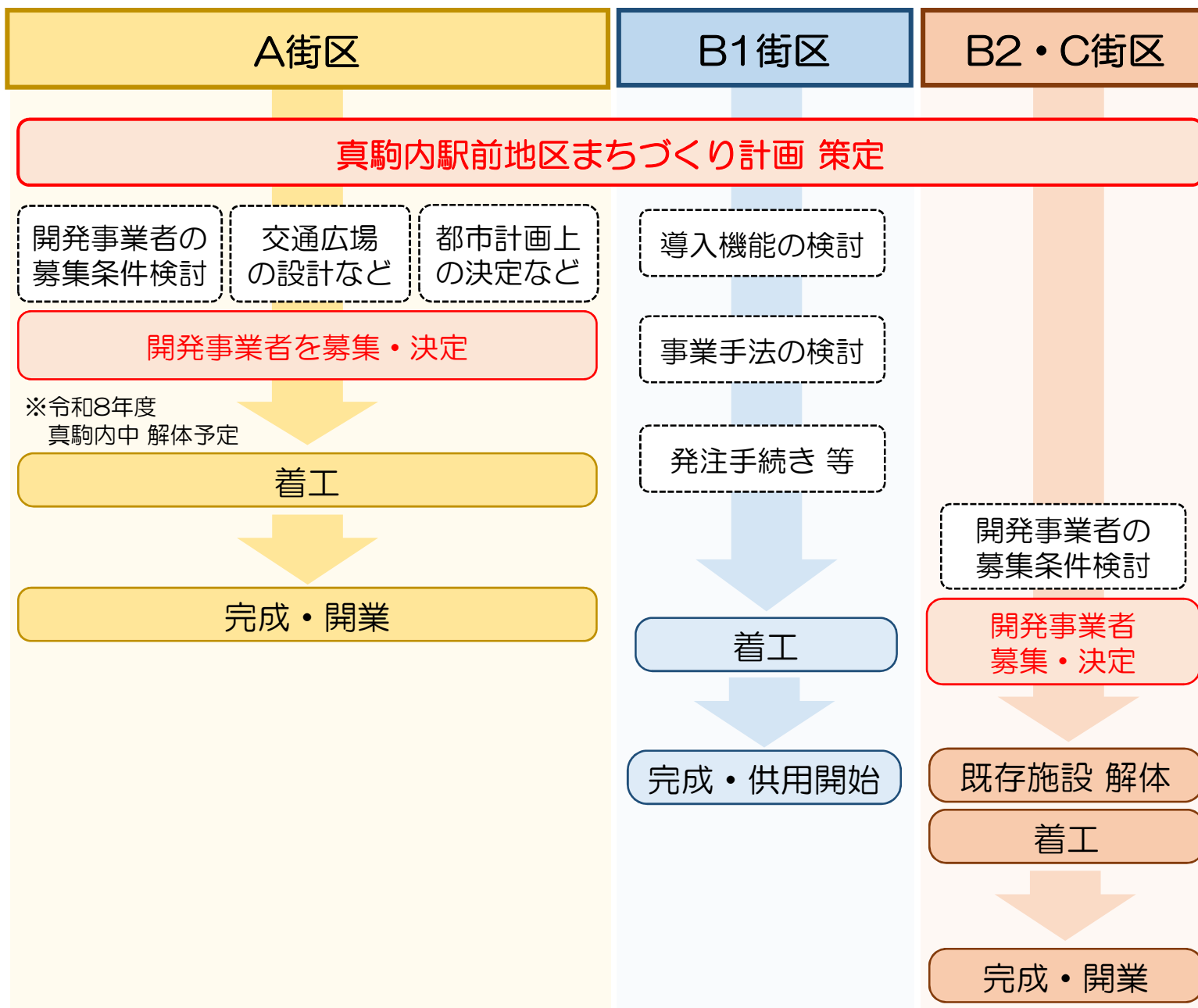
令和4年3月26日（土）
札幌市まちづくり政策局
都市計画部





まちづくり計画策定後の流れ【想定イメージ】

令和4年度～



報告

土地利用計画案に係る各調査結果について

各案の評価

➡ 土地利用計画案の検討の中で整理

- 案1は、乗り継ぎ等の歩行者動線が合理的な形である
- 案1は、様々な交通課題の解決に有効である一方、案2は課題が残る
- 案1の場合、送迎車両等により渋滞しないよう配慮が必要である

景観・空間整備

➡ 後段「景観・みどり」でのご意見も踏まえ、計画書へ取りまとめ

- 地下鉄始発駅にふさわしい機能や空間整備が必要である
- 新たな建物は、周辺と調和がとれた景観となるよう配慮が必要である

交通施設

➡ 障がい者用乗降場：土地利用計画案に追記
自転車活用：シェアサイクルの可能性等について引き続き検討

- 交通施設が集約され、駅利用者の利便が向上する
- 駅に近接した場所に障がい者用の乗降場を確保すべき
- 駐輪場整備に合わせ、自転車の活用も検討すべき

エリアマネジメント

➡ 後段「地域のまちづくり」でのご意見も踏まえ、計画書へ取りまとめ

- 資金確保の方法が重要であり、開発着手前から運営方法等の想定が必要である

各案の評価



土地利用計画案の検討の中で整理

- 案1は、乗り継ぎ利便向上に加え、**地域全体のにぎわい**に繋がる
- 案1は、「**人のための駅前**」となり、様々な世代に対して魅力が高まる
- 案1は、**交通渋滞の増加や緊急車両運用への支障**が心配される
- 案2は、**既存の真駒内の特徴や魅力**を活かしたまちづくりが可能となる

各街区の土地利用



既存商業施設との連携の必要性について、計画書に記載

- A街区の配置は、バス待ち時間を有意義に使える
- 各街区の機能配置は全体のバランスを意識したものと考えられる
- **既存店舗と共存共栄**することが重要である

交通施設



駐輪場 : 計画書への記載 (A街区施設との連携)
自転車の活用 : シェアサイクルの可能性等について引き続き検討

- **駐輪場のあり方**について、検討を深めるべき
- **レンタサイクルの実現に向けて検討**をしてほしい

景観・空間整備

➡ 後段「景観・みどり」でのご意見も踏まえ、計画書へ取りまとめ

- 駅前の街路樹や桜山など、**景観と調和のとれた駅前空間**としてほしい
- 新たな建物は、高さの配慮など、**周辺と調和のとれた景観**となるよう配慮が必要

交流広場

➡ 後段「地域のまちづくり」でのご意見も踏まえ、計画書へ取りまとめ

- **各季節においても利用しやすい広場**としてほしい
- 効果的に活用されるよう、**事前にマネジメント等の体制を考えておく**べき

歩行者動線

➡ サウンディング調査結果を踏まえつつ、計画書への記載の程度について慎重に検討

- **街区間連絡動線にもにぎわいがにじみ出るような配置**となるとよい

環境施策

➡ 土地利用計画案の検討の中で整理

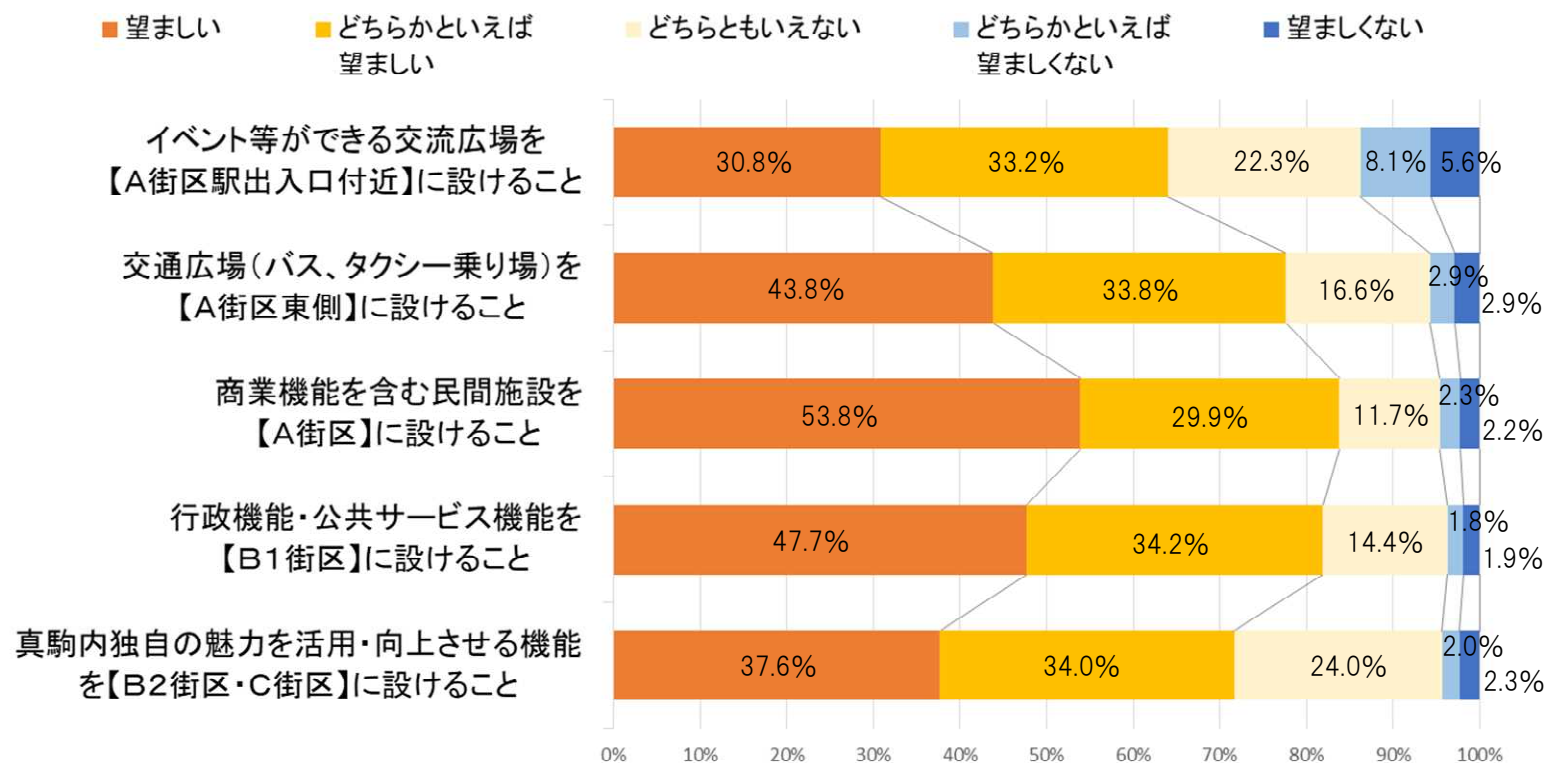
- 駅前は歩行者中心の場所とし、**水素・EVステーションは駅から少し離す**方がよい

(1) 調査概要

- 調査期間 : 令和3年5月10日～5月31日
- 調査対象 : 南区在住の18歳以上の方6,000名 (年代・住所を考慮しながら無作為抽出)
- 回収結果 : 2,448票(40.8%)

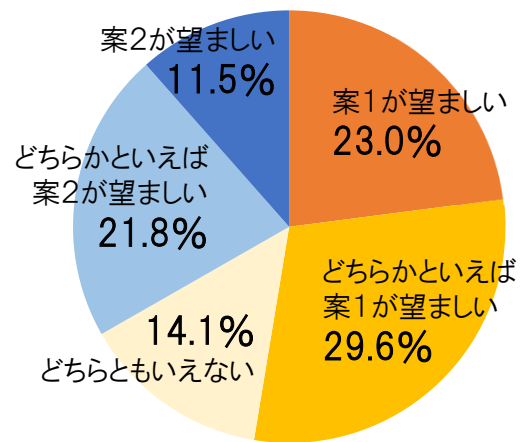
(2) 調査結果

① 各街区の土地利用方針について

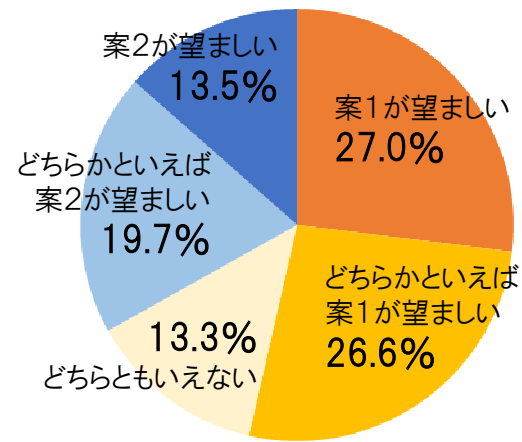


② 2つの土地利用計画案について

< 南区全体 >



< 真駒内地域 >



③ 自由記載意見について

- 円滑な交通環境確保のため、**道路拡幅など十分な対応**が必要である
- 違法駐停車による渋滞をなくすため、**十分な「送迎スペース」や「駐車場」**が必要である
- 真駒内駅前の**平岸通の乱横断**は非常に危険であるので対応すべき
- 平岸通の**迂回による渋滞**が懸念される
- **平岸通を現状のままとしながら、駅とA街区の接続**はできないのか

(1) 調査概要

- 調査時期 : 令和3年4月～5月
- 調査方法 : 土地利用計画案を提示し、対話を希望する事業者を募集
- 参加団体数 : 12団体 (開発・不動産事業者、総合建設業者、商業事業者)

(2) 調査結果

各案の評価

→ 土地利用計画案の検討の中で整理

- 駅直結化によるにぎわい創出の期待、利便性の向上等の観点から、**案1の方が投資意欲が高く質の高い開発が可能**となる

各街区の市場ニーズ

→ 各街区の方針は原案通りで整理することを想定

- A街区は商業、住宅、医療など**多様な用途を導入できる可能性**がある
(商業 : 10,000㎡程度、住宅 : 100戸程度)
- B2・C街区は駅から距離もあるので、**目的性の高い用途**が望ましい

交流広場・交通広場

→ 民活との連携を前提としたものとして計画書に取りまとめ

- 交流広場は**A街区施設と一体的に整備・管理できる可能性**がある
- A街区施設へのバス待合空間の取込みは、施設側にもメリットがある

エリアマネジメント

→ 後段「地域のまちづくり」でのご意見も踏まえ、計画書へ取りまとめ

- **交流広場の運営程度であれば可能性**があるが、広告収入等も限定的なので、持続性の確保や広域的な展開には十分な検討が必要である

（1）実施概要

- ・実施日時 : 令和3年12月2日（木）14:00~19:30
令和3年12月5日（日）10:30~16:30
- ・実施場所 : 南区民センター
- ・来場者数 : 約400名（2日間合計）

土地利用計画案（2案）、交通解析（シミュレーション動画）
イメージパース、駅舎と街区の接続手法の検討資料などを提示

（2）来場者の意見等

各案の評価



土地利用計画案の検討の中で整理

- ・にぎわい創出のため、**駅と駅前街区の直結化**を望む
- ・民間事業者の**投資意欲向上の観点**は重要
- ・平岸通の迂回化は**自家用車や緊急車両の利便性・速達性が低下**する

その他ご意見



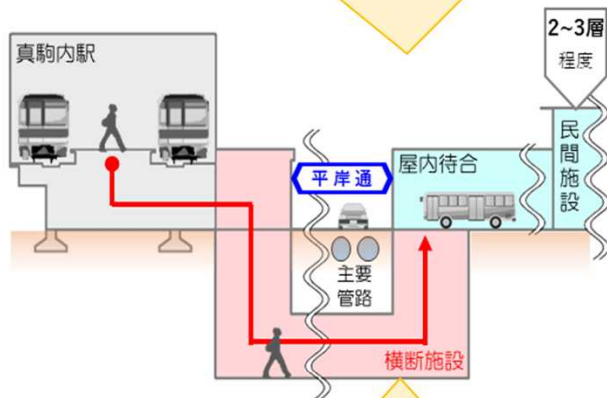
社会傾向の変化：計画書の現状・課題の中で整理
地域全体の俯瞰：後段の「周辺地域」でご意見を踏まえ計画書に取りまとめ
若年層等の意見：ターゲットを絞った意見聴取について検討

- ・**社会傾向の変化を踏まえた将来のまちづくりのあり方**を、積極的に発信すべき
- ・駅前だけではなく**地域全体を俯瞰**し、広い視野で検討を進めるべき
- ・**若年層や子育て世代の意見**をしっかりと聴取すべき
- ・駅の構造上の理由や利便性の低さから、空中歩廊による接続等は困難と理解

オープンハウスにおいて提示した資料 (一部抜粋)

パターンA (地下通路)

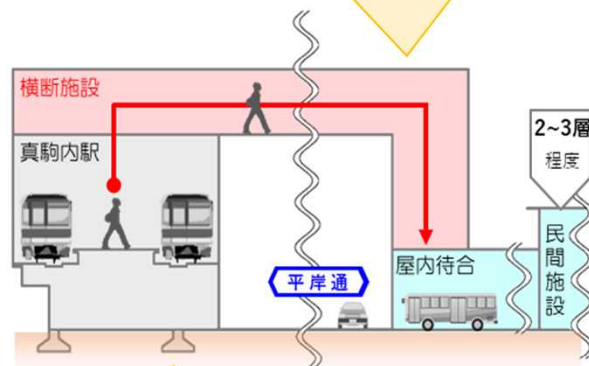
新たに整備される街区までの
上下移動が多いため動線が
複雑になり、移動距離も長く、
利用されない可能性が高い。



平岸通の主要管路下部のため、
相当深度の掘削が必要であり、
設置箇所や費用について、十分な
検討が必要。

パターンB (3階空中歩廊)

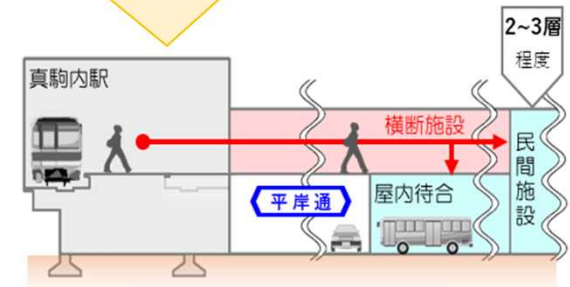
新たに整備される街区までの
上下移動が多いため動線が
複雑になり、移動距離も長く、
利用されない可能性が高い。



駅舎に新たな構造体が積載
されるため、既存駅舎の構造
では支持できない可能性が高い。

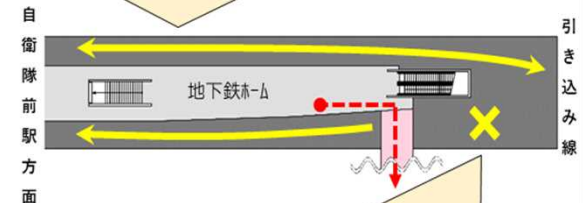
パターンC (2階空中歩廊)

地下鉄の2番線引き込み線が
利用できなくなることから、
旅客サービスの低下・緊急輸送
の対応困難などの影響が発生する。

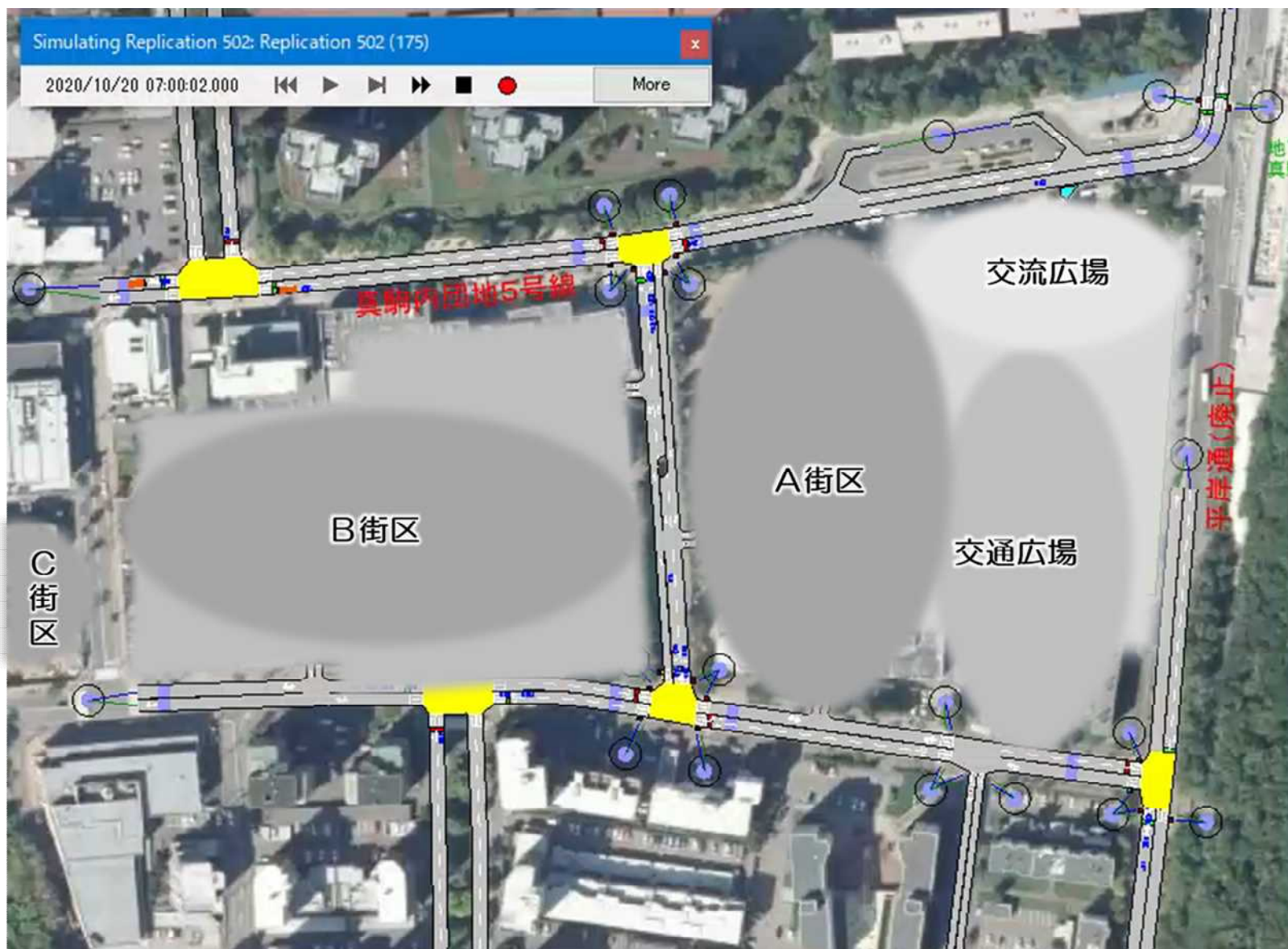


地下鉄軌道イメージ

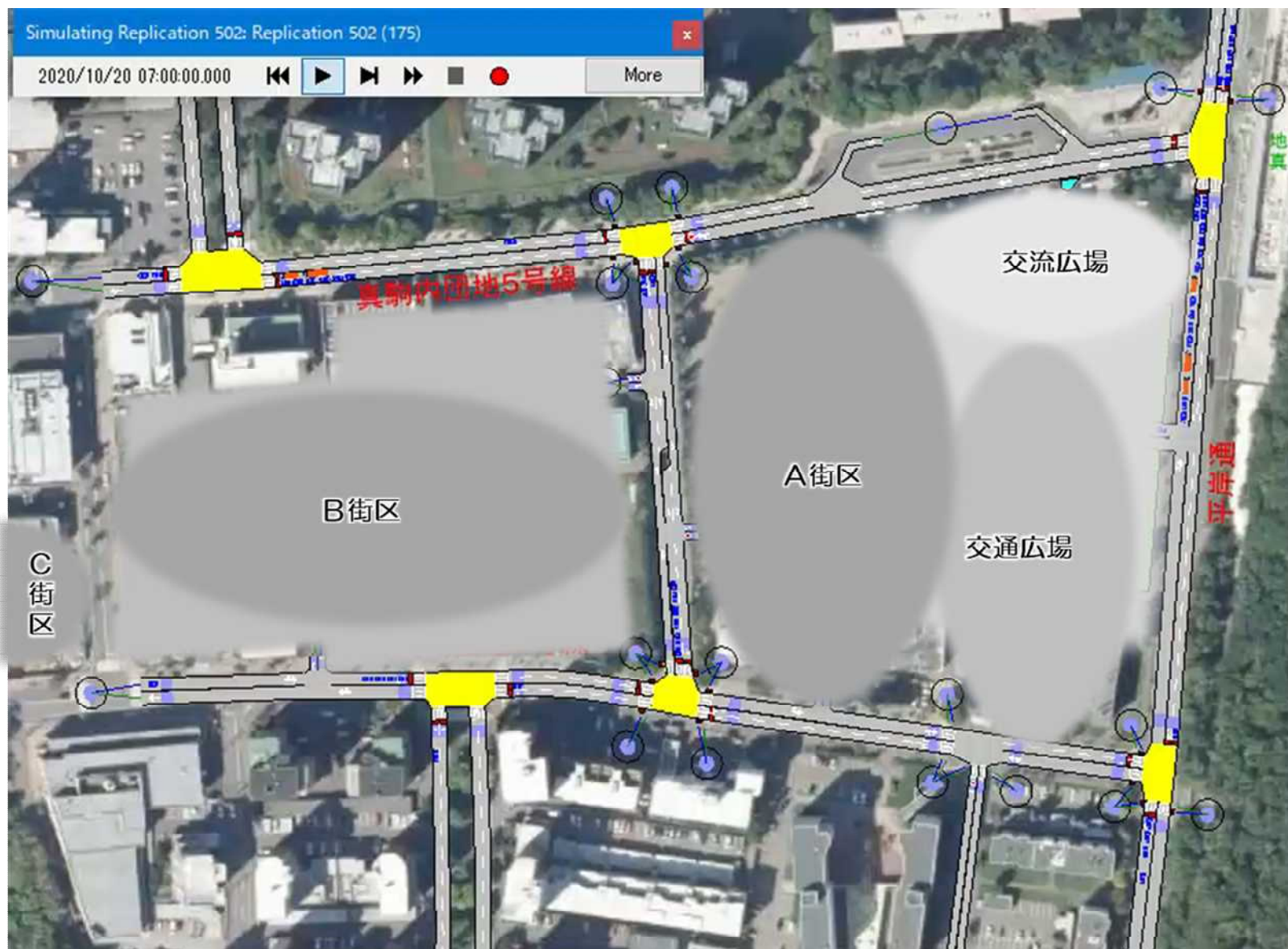
1番線：ピストン輸送+引き込み線利用



2番線：ピストン輸送のみ (引き込み線利用不可)



凡例 ■:青色車両(一般車両) ■:赤色車両(バス等)



凡例 : 青色車両(一般車両) : 赤色車両(バス等)



北側から
交流広場を
見下ろした
視点

真駒内駅
正面からの視点





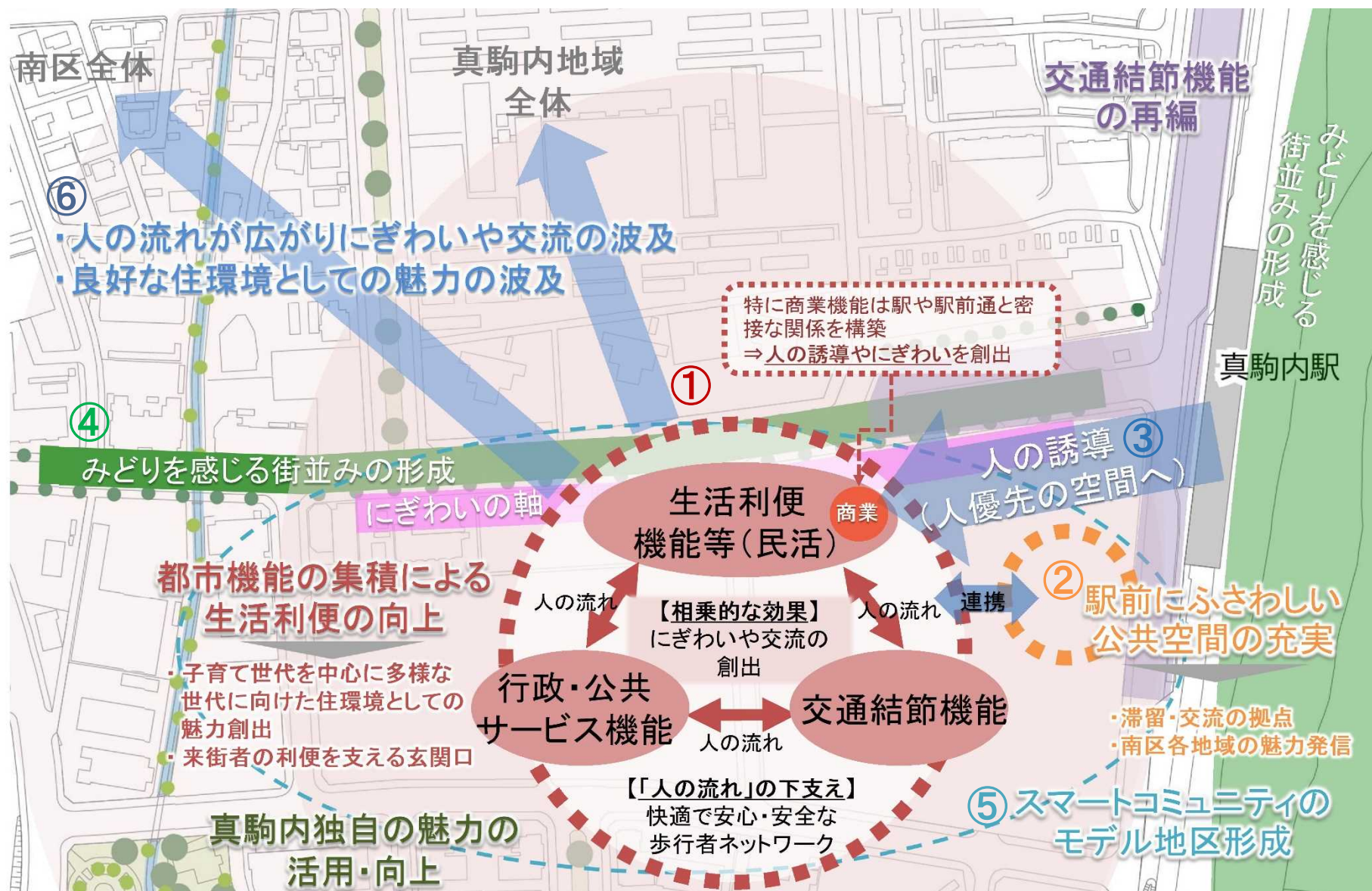
北側から
交流広場を
見下ろした
視点

真駒内駅
正面からの視点



話題提供

まちづくりを支える取組について



① 都市機能の相乗効果によりにぎわい等を創出

図中央の、民活施設などの「生活利便機能等」、区役所等の「行政・公共サービス機能」、真駒内駅前の「交通結節機能」を駅前の主要な機能とし、これら相互間の人の流れを促すことで、相乗効果としてにぎわいや交流の創出を目指します。

② 駅前にふさわしい公共空間の充実

駅前にふさわしい公共空間を充実することにより、駅前を「滞留・交流の拠点や南区各地域の魅力発信の場」とすることを目指します。



③ 人の誘導によりにぎわい創出を促進

駅から駅前地区へ人の流れを誘導し、特に「商業機能」を駅や駅前通りと密接な関係にすることで、にぎわい創出の促進を目指します。

土地利用計画

④ みどりを感ずる街並みの形成

桜山や駅前通りの緑豊かな景観を活かし、「みどりを感じる街並み」の形成を目指します。



⑤ スマートコミュニティのモデル地区形成

駒岡清掃工場からの排熱の活用や、先進・省エネ技術の導入など、環境等に配慮したまちづくりとして「スマートコミュニティのモデル地区の形成」を目指します。



⑥ 真駒内地域全体・南区全体に効果を波及

①～⑤の取組を組み合わせ、真駒内地域全体や南区全体に、にぎわい・交流の波及や、良好な住環境としての魅力の波及を目指します。

まちづくりを支える取組

まちづくりを支える取組について

①景観・みどり

【これまでいただいたご意見】

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 検討委員会● 地域協議会 | <ul style="list-style-type: none">● A街区に立地する建築物の景観上配慮の必要性（桜山、駅前通り側）● 桜山の見え方が重要な視点● 駅前通りのみどりの街区内への取り込み● 桜山や街路樹、真駒内川等の豊かな自然を活かしたまちづくり● 周辺のみどりのネットワークと駅前地区の一体化● 地下鉄始発駅にふさわしい風格ある空間づくり |
| <ul style="list-style-type: none">● 事業者ヒアリング等● 区民アンケート等 | <ul style="list-style-type: none">● みどりが多い地域特性を踏まえ、積極的に調和を図る（外観デザイン、敷地内緑化）● 「買物・にぎわい」や「交通・バリアフリー」に次いで関心が高い |

【これまでいただいたご意見】

| | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 検討委員会 ● 地域協議会 | <ul style="list-style-type: none"> ● A街区に立地する建築物の景観上配慮の必要性（桜山、駅前通り側） ● 桜山の見え方が重要な視点 ● 駅前通りのみどりの街区内への取り込み ● 桜山や街路樹、真駒内川等の豊かな自然を活かしたまちづくり ● 周辺のみどりのネットワークと駅前地区の一体化 ● 地下鉄始発駅にふさわしい風格ある空間づくり |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 事業者ヒアリング等 ● 区民アンケート等 | <ul style="list-style-type: none"> ● みどりが多い地域特性を踏まえ、積極的に調和を図る（外観デザイン、敷地内緑化） ● 「買物・にぎわい」や「交通・バリアフリー」に次いで関心が高い |

【基本的な考え方】

| | |
|---|--|
| <p>遠景</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 周辺の山並みの見通しへの配慮 ▶ 建物形状：山並みの見え方を尊重 | <p>中景</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 真駒内らしい豊かなみどりと調和した景観の形成 ▶ 街区内建物：積極的な敷地内緑化 |
| <p>近景</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 品格ある街並みの形成 ▶ 建物意匠：周辺の自然環境と調和 ◆ 開放的でにぎわいを創出する駅前にふさわしい顔づくり ▶ 交流広場：南区の玄関口にふさわしいにぎわいの創出と風格ある空間づくり | <ul style="list-style-type: none"> ◆ ゆとりある歩行者空間の確保 ▶ 歩行者空間：交流広場と駅前通りの連続化による回遊性確保 |

【まちづくり計画での考え方の整理】



Sources: Esri, Airbus DS, USGS, NGA, NASA, CGIAR, N. Robinson, NCEAS, NLS, GS, NMA, Geodet, Hansen, Rijkswaterstaat, GSA, Geoland, FEMA, Intermap and the GIS user community. Sources: Esri, HERE, Garmin, Intermap, INCREMENT P, GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeoEbase, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri, Japan, METI, Esri China (Hong Kong), Swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, GIS User Community.

【今後の展開】

景観に関して市民・事業者等との共同により検討した内容



札幌市景観条例に基づく
「景観まちづくり指針」



- 目標・方針
良好な景観形成に向けて、地区で共有すべき将来像や取組の方向性など
- 対象地区(景観まちづくり推進区域など)
景観まちづくり指針に定めた内容を実現する範囲
- 地域景観形成基準
目標・方針に基づいた良好な景観形成のためのルール(基準)など
- 地域届出対象行為
札幌市に届出を行う必要がある行為
(建築物の新築・増改築、工作物や看板の設置など)
- 良好な景観の形成に資する活動
地域のみなさんが中心となり取り組む、良好な景観の形成につながる活動



今後、地域の方々と引き続き議論を重ねながら

真駒内駅周辺地域における「景観まちづくり指針」の策定に向けた検討を進める

まちづくりを支える取組について

②スマートコミュニティについて

【スマートコミュニティ構想】

有識者会議の開催などを通し検討
 ～平成30年度に「**構想**」を取りまとめ

- 地球温暖化に対応した環境に優しいエネルギー
- 災害時にも電気や熱が利用できる環境の構築
- ICTなどの先進技術の活用

➡ 「環境性の向上」「安全・安心」「滞留・交流」「経済波及」
 新たな価値を創出するスマートコミュニティモデル地区の形成を目指す

⑤ スマートコミュニティのモデル地区形成

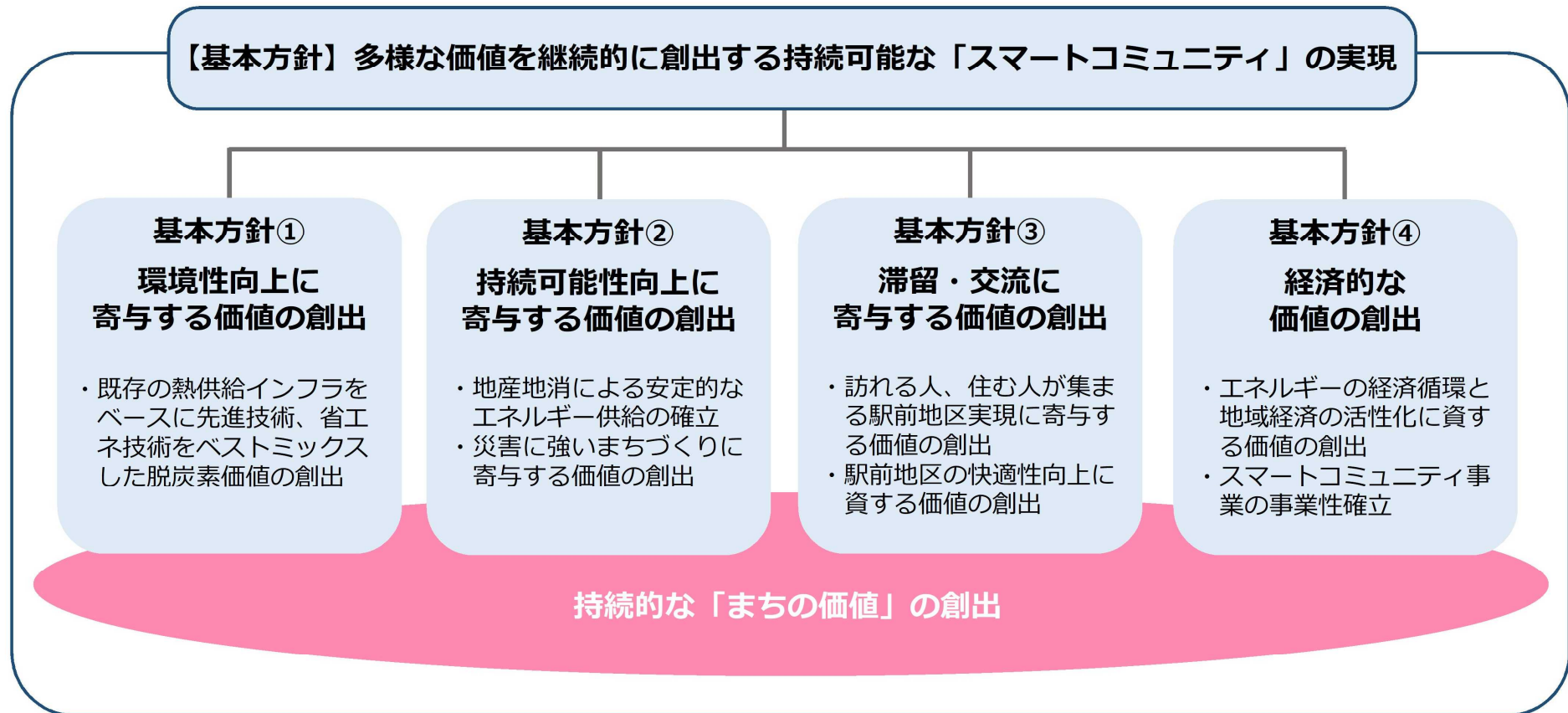
駒岡清掃工場からの排熱の活用や、先進・省エネ技術の導入など、環境等に配慮したまちづくりとして「スマートコミュニティのモデル地区の形成」を目指します。



【これまでいただいたご意見】

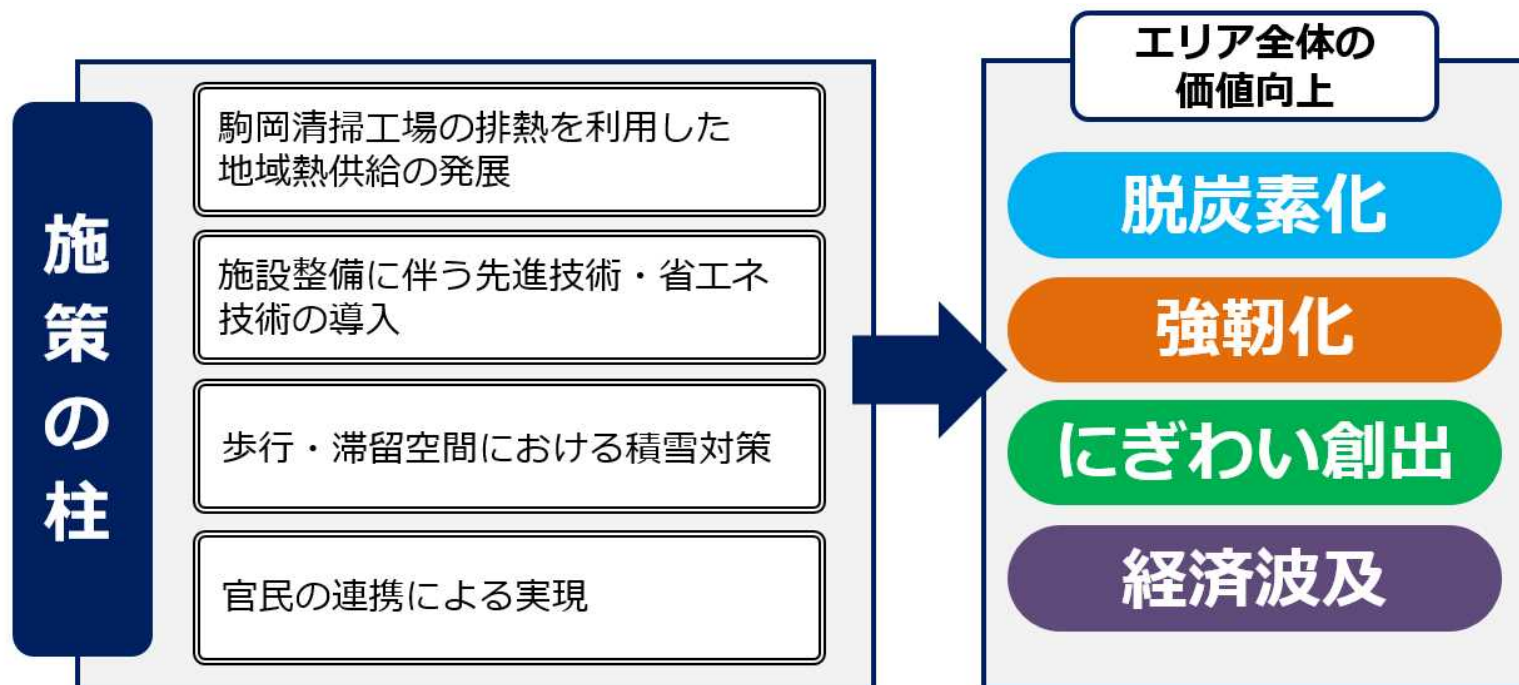
| | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 検討委員会 ● 地域協議会 | <ul style="list-style-type: none"> ● 郊外だからこそ必要とされるスマートコミュニティのあり方 ● 地域暖房の有効活用 ● 排熱（地域暖房）のロードヒーティングへの活用 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 事業者ヒアリング等 ● 区民アンケート等 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域熱供給の活用は前向きに検討、ただしランニングコスト圧縮が必要 ● 建築物の省エネ化（ZEB化等）はコストバランスを見据えながら検討 |

【スマートコミュニティの基本方針】



➡ 「経済的」にも持続可能であることが重要
事業性を考慮しながら、真駒内地域にふさわしい環境の構築を目指す

【施策の方向性】



- ・ 駒岡清掃工場の更新による熱供給体制の増強をふまえた、積極的な廃熱活用
- ・ ICT技術や再生可能エネルギーなど、様々な先進技術・省エネ技術の導入
- ・ 歩行空間・滞留空間の環境改善（ロードヒーティング）を通し、にぎわいの創出に寄与
- ・ 「官民の連携」による事業実現と経済波及

【スマートコミュニティの形成イメージ】

地域熱供給のスケールアップ



【駒岡清掃工場】

処理能力：600t /日
真駒内駅前から約4km

駒岡清掃工場の更新（2025年 供用開始予定）

- ・ボイラ高温高压化
- ・高効率発電導入

地域熱供給源

更新前：工場排熱 50%
化石燃料 50%（追い炊き）

更新後：工場排熱 90%以上

- ◆地域熱供給の大幅な脱炭素化
- ◆災害時でも暖房や給湯の利用が可能

土地利用再編の機会を捉え、
導入施設の拡大を目指す

化石燃料消費量が大幅に減少

CO₂排出量 約45%削減

（真駒内幸町2～3丁目、緑町3～4丁目において）

土地利用再編に伴う技術導入

建築物の省エネ化（ZEB）

高性能断熱や高効率空調設備等によりZEB（ゼロ・エネルギー・ビル）を目指した省エネを実現

エネルギーマネジメントシステムの導入

ICT技術を活用し、エネルギーの需給状況を監視し制御するBEMS（ビル・エネルギー・マネジメントシステム）を導入

再生可能エネルギー等の活用

太陽光発電の設置や水素エネルギーの活用によるCO₂フリーエネルギーの活用

歩行・滞留空間のロードヒーティング

地域熱供給等を活用したロードヒーティングの導入

分散型電源の設置

燃料電池や蓄電池、燃料電池自動車（FCV）の導入による脱炭素化と効率的エネルギー利用、災害時にもエネルギー利用を実現

環境にやさしい電力の利用

再生可能エネルギーの利用に加え、環境性に優れた電力を調達

ICTを活用したサービス

利便性、快適性、安全・安心等に資するICTサービスの提供を想定

各技術の導入に向け

事業実現性の検討や条件整理を進め、
さらなるCO₂排出量の削減を目指す

まちづくりを支える取組について

③周辺地域への波及・展開

【これまでのご意見等】

| | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 検討委員会 ● 地域協議会 | <ul style="list-style-type: none"> ● 南区各地への玄関口としての機能が求められる ● 南区民の生活を支える拠点となる ● 南区各地の魅力発信の場を目指す ● 真駒内全体の魅力の向上へつなげる ● 真駒内広域への周遊性を確保する |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 事業者ヒアリング等 ● 区民アンケート等 | <ul style="list-style-type: none"> ● 既存商業施設との連携（共同イベント等） ● 周辺観光地への案内機能の充実 ● 南区各地の住民の期待（買い物、乗り継ぎ環境の改善） |

【基本的な考え方】

南区各地 と 真駒内駅前地区

- ◆ 「交流広場」での南区各地の情報発信・観光案内
- ◆ 南区民の生活を支える拠点づくり
 - ▶ 将来にわたり南区を支える都市構造の要として、真駒内駅前地区の拠点機能を充実・強化

真駒内地域全体 と 真駒内駅前地区

- ◆ 駅前地区の充実化と地域内の回遊性の向上
 - ▶ 回遊性の向上により、駅前地区のにぎわいを周辺地域へつなげ「歩いて暮らせるまち」を再生
 - ▶ 駅前地区の充実化により、住みやすい真駒内地域を実現し、真駒内各地の民間投資を誘引

【南区各地 と 真駒内駅前地区】

南区各地 豊富な観光・地域資源

- ◇自然や文化に触れる様々な地域資源が点在
- ◇二セコ・支笏湖・洞爺等の観光地が近接

魅力資源の発掘・創出・活用

情報発信・PRの強化

アクセスの強化

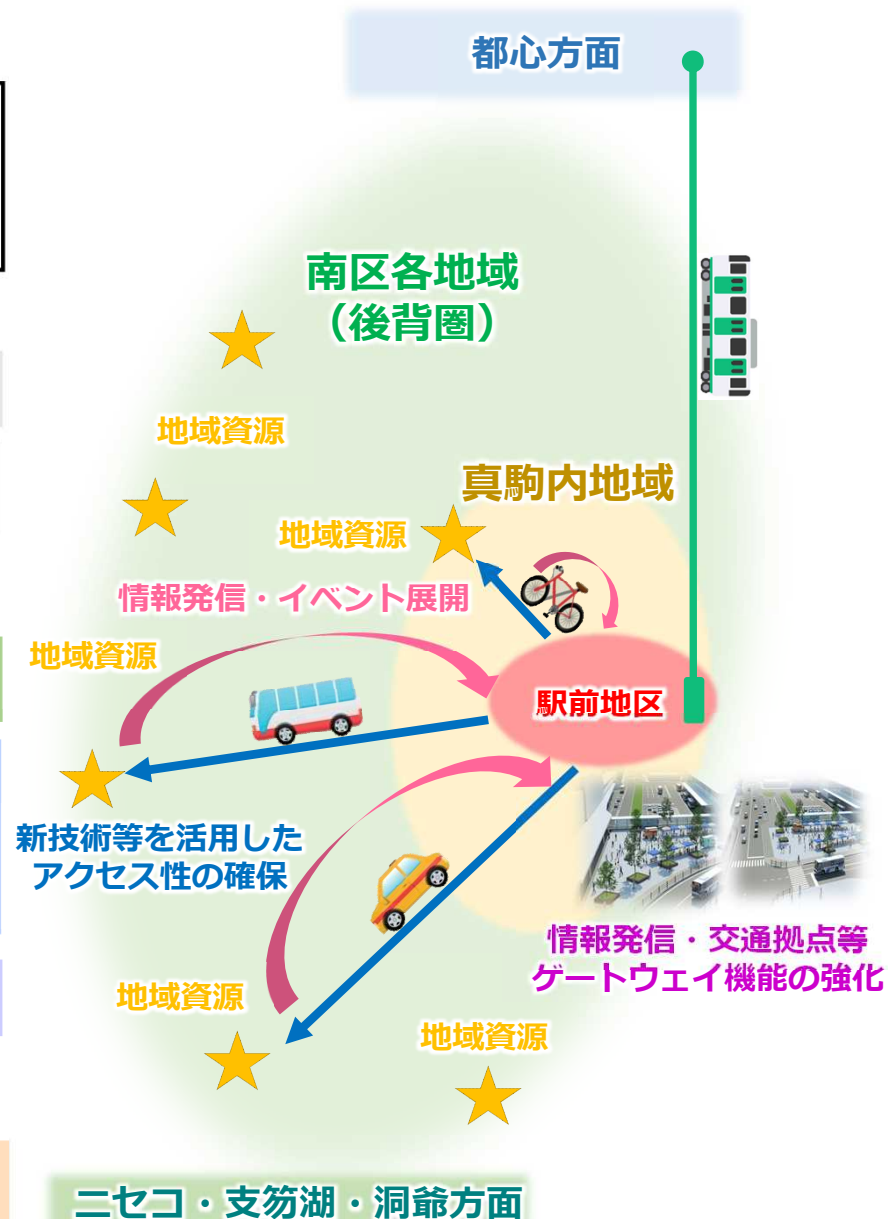
当まちづくりの推進

ICT等や交流広場を
活用した
多角的な情報発信

交通結節機能や
民活機能との連携

南区の「ゲートウェイ機能」としての真駒内駅前

南区全体の交流人口の増加・活性化



【南区各地 と 真駒内駅前地区】

南区 現状の都市構造

- ◇自動車利用を前提としたロードサイド型
- ◇利便性の高い都心部への直通バス

予想される課題

生活利便性の低下

- ◇高齢化に伴う自家用車利用の減少
- ◇人口減に伴う生活利便施設の衰退

公共交通サービス水準の低下

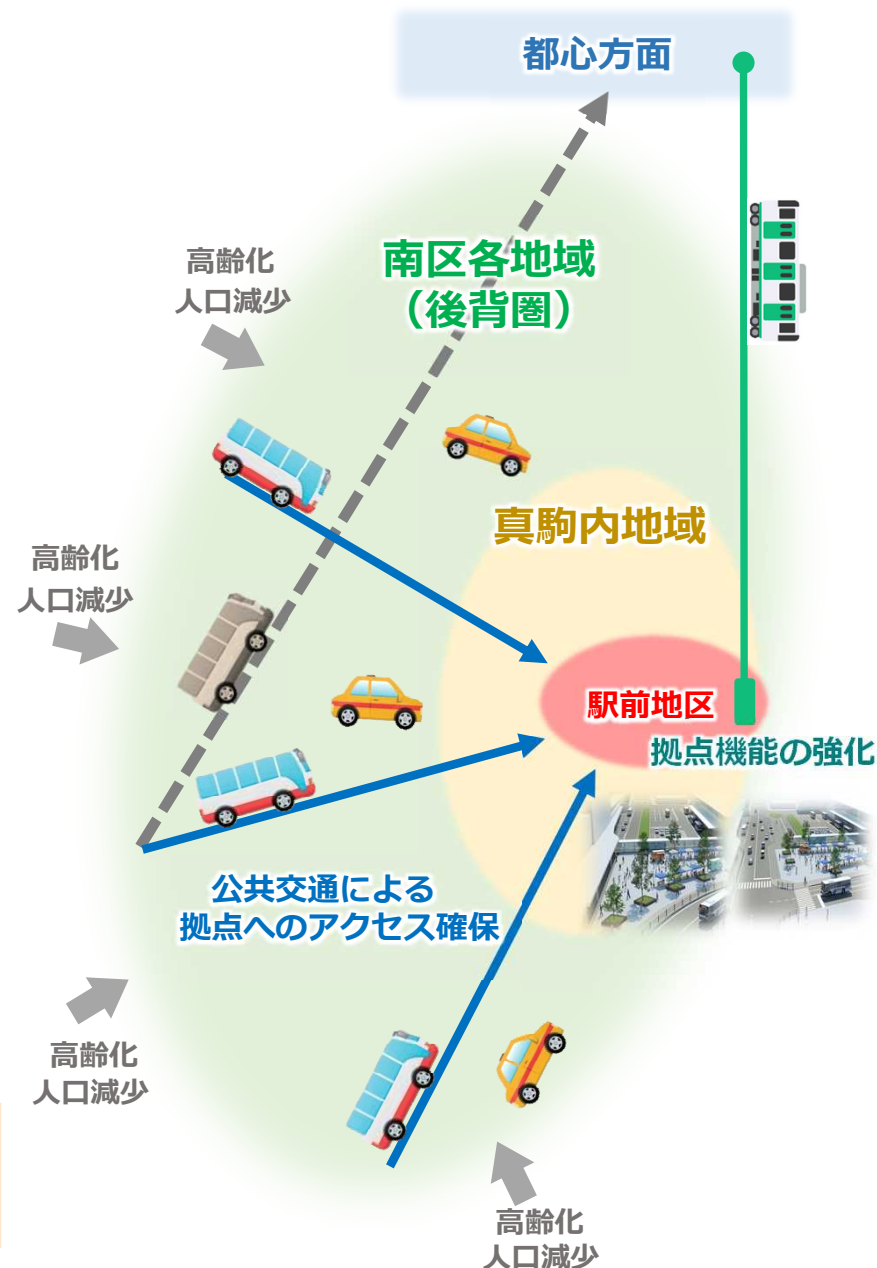
- ◇高齢化に伴うドライバー不足
- ◇長距離路線運行の負担（運転時間、定時性確保など）

当まちづくりの推進

**真駒内駅前地区
拠点機能の充実・強化**

**公共交通による拠点への
アクセス確保**

公共交通を利用し真駒内駅へアクセスすると
十分な都市機能を楽しむことができる都市構造へ



【真駒内地域全体 と 真駒内駅前地区】

真駒内地域 現状の課題
 ◇商業地区の機能低下による生活利便の低下
 ◇駅とまちのつながりが希薄

住みづらいまち

地域価値の低下

人口減少・少子高齢化に拍車

当まちづくりの推進

生活利便機能の強化

◇住宅地としての魅力回復



既存歩行者NWに
ネットワーク
 人の流れを繋ぐ

◇NW沿道の再生機運の醸成

老朽建築物の
 建替え・更新促進

新規需要による
 土地利用更新

民間投資の誘引による
 連鎖的な土地利用転換へ



まちづくりを支える取組について

④地域主体の持続的なまちづくり

【これまでいただいたご意見】

| | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 検討委員会 ● 地域協議会 | <ul style="list-style-type: none"> ● エリアマネジメント組織の事前想定（資金源・担い手）が必要 ● エリアマネジメントの広域展開の検討 ● 時代に追随し、地域価値を向上し続ける組織の必要性 ● 広場運営に関して広くアイデアを募れる仕組み ● 学生や高齢者の交流・活動を支える仕組み |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 事業者ヒアリング等 ● 区民アンケート等 | <ul style="list-style-type: none"> ● 持続的な活動を支える資金と人手が課題となる ● 活動範囲が広域になると、運営が困難になる可能性が高い ● 交流広場の運営や維持管理程度であれば参画できる可能性がある |

【基本的な考え方】

地域価値向上に向けた活動の展開

- ◆ にぎわいの核となる「交流広場」（地域イベント・情報発信・チャレンジ支援等）
 - ▶ まちづくりに参画する民間事業者、地域住民が主体となった運営・維持管理

展開の仕方

- ◆ まずは、駅前地区の交流広場での取組や活動の定着を目指す
 - ▶ 実績を積み重ねた上で、真駒内広域での様々な取組へ展開

【今後の展開】

まちづくり計画策定後～
持続的なマネジメント組織のあり方検討

- ◆ 交流広場を核としたマネジメント事例
- ◆ イベント・情報発信・チャレンジ支援の事例
- ◆ 「担い手」「資金源」確保の現実性

【当面の取組み】

「まこまる」を活用したまちづくりの機運醸成

【交流広場 整備後】

駅前の人々が行き交う交流の拠点に

【将来に向けて】

交流広場での取組や活動を広域へ展開



まこまるを活用したイベントの様子
(まこ×まちvol.2)※写真は2016年に撮影されたものです。
運営者:まこ×まち実行委員会(地域企業等により組織)



イベントが開催されにぎわう広場の事例
(札幌市 北3条広場)
管理者・運営者:札幌駅前通まちづくり会社

これまでの検討成果の反映機会
(想定イメージ)

真駒内駅前地区
まちづくり計画

- ◆まちづくりの基本方針・コンセプト
- ◆各街区、広場、道路などのレイアウト
- ◆各街区の機能の方向性
- ◆周辺地域との関係性 など

真駒内駅周辺地域
景観まちづくり指針

- ◆地域の魅力の発見と共有・発信
- ◆景観づくりの方針策定
- ◆建物等に関するルールづくり など

持続的なマネジメント
組織のあり方検討

- ◆交流広場を核とした取組み
- ◆担い手・資金源確保の手法
- ◆広域展開の実現性 など

開発事業者の
募集条件設定

地区計画（都市計画法）
による建築制限

交流広場のあり方
ルールづくり

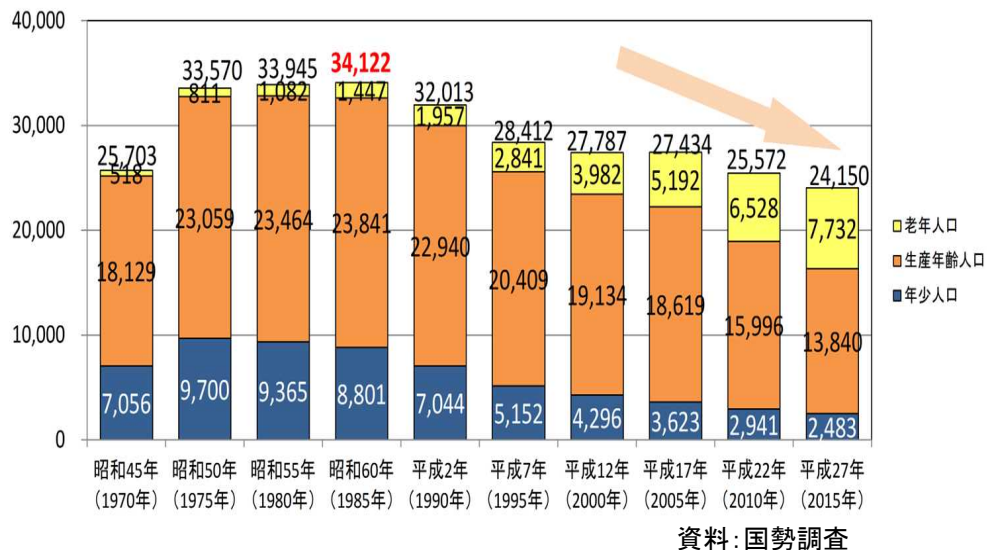
交通広場の設計

上記のほか、当まちづくりの実現に向けた各検討段階において、
これまでいただいたご意見を反映していきます。

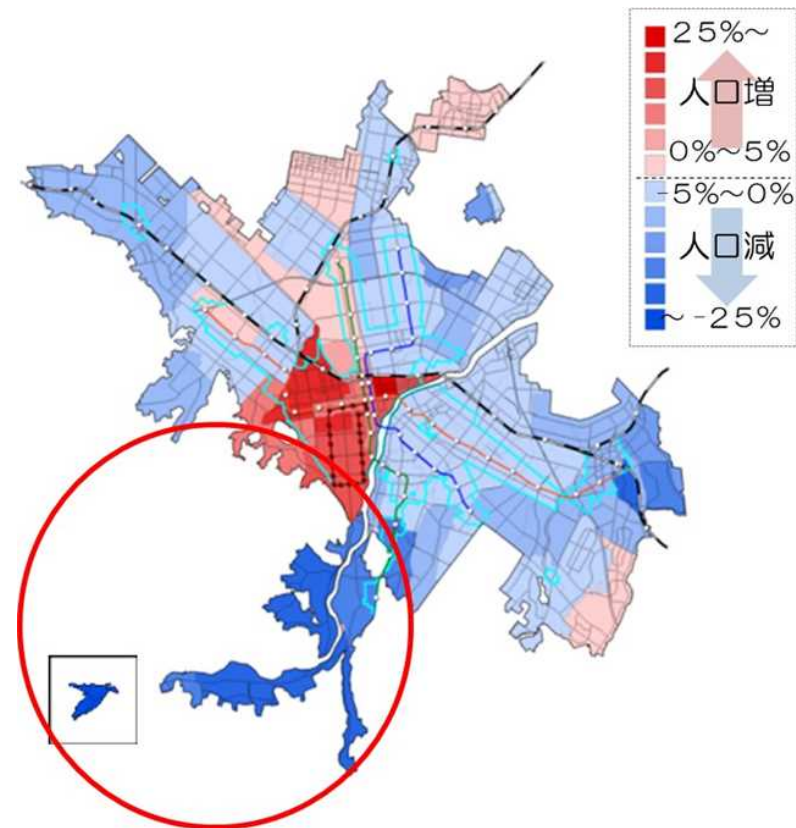
おわり

参考データ

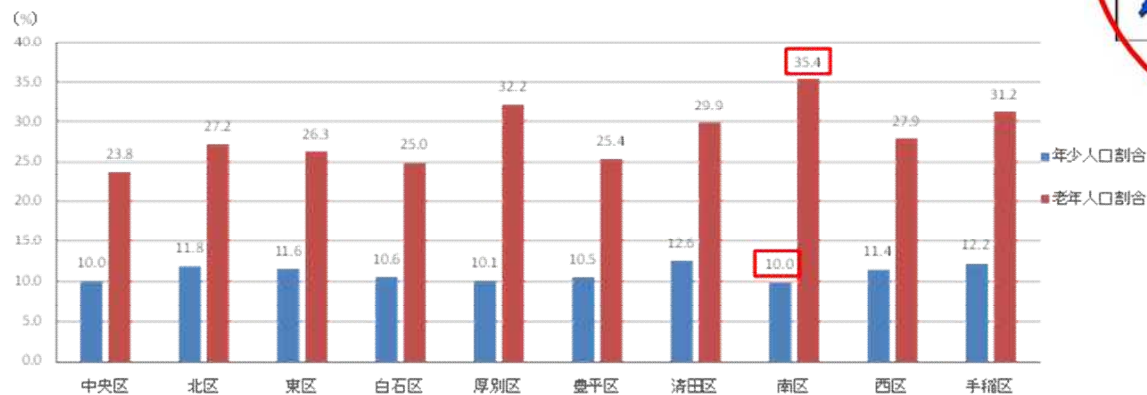
<真駒内地域の人口の推移>



<将来人口 増減率 (H22~42)>



<区別年少・老年人口割合 (R3)>



資料: 住民基本台帳(令和3年1月)

<周辺主要道路の交通量> (平日12h 7:00~19:00)

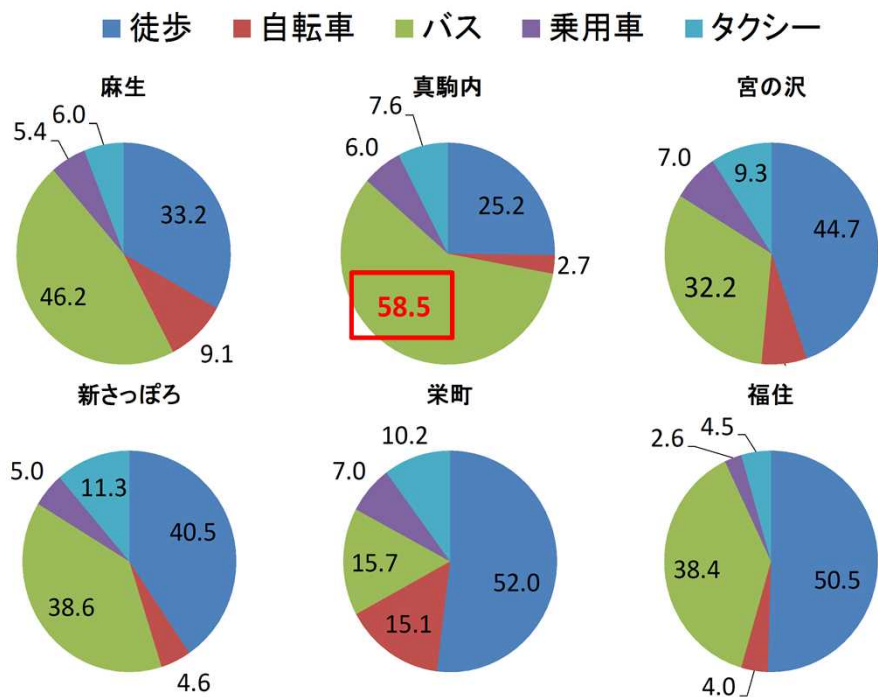
- ・平岸通 : 6,700台 (H30) ⇐ 7,800台 (H16) ※減少傾向
- ・五輪通 : 13,300台 (H29) ⇐ 13,300台 (H20)
- ・国道453号 : 15,300台 (H30) ⇐ 15,400台 (H20)

<駅前交差点の歩行者・自転車交通量>

| | 歩行者 | 自転車 |
|----|-------------|----------|
| 平日 | 10,347人/12h | 243台/12h |
| 休日 | 5,948人/12h | 165台/12h |

(H30.10)

<地下鉄利用者乗り継ぎ手段割合>



資料：平成18年パーソントリップ調査

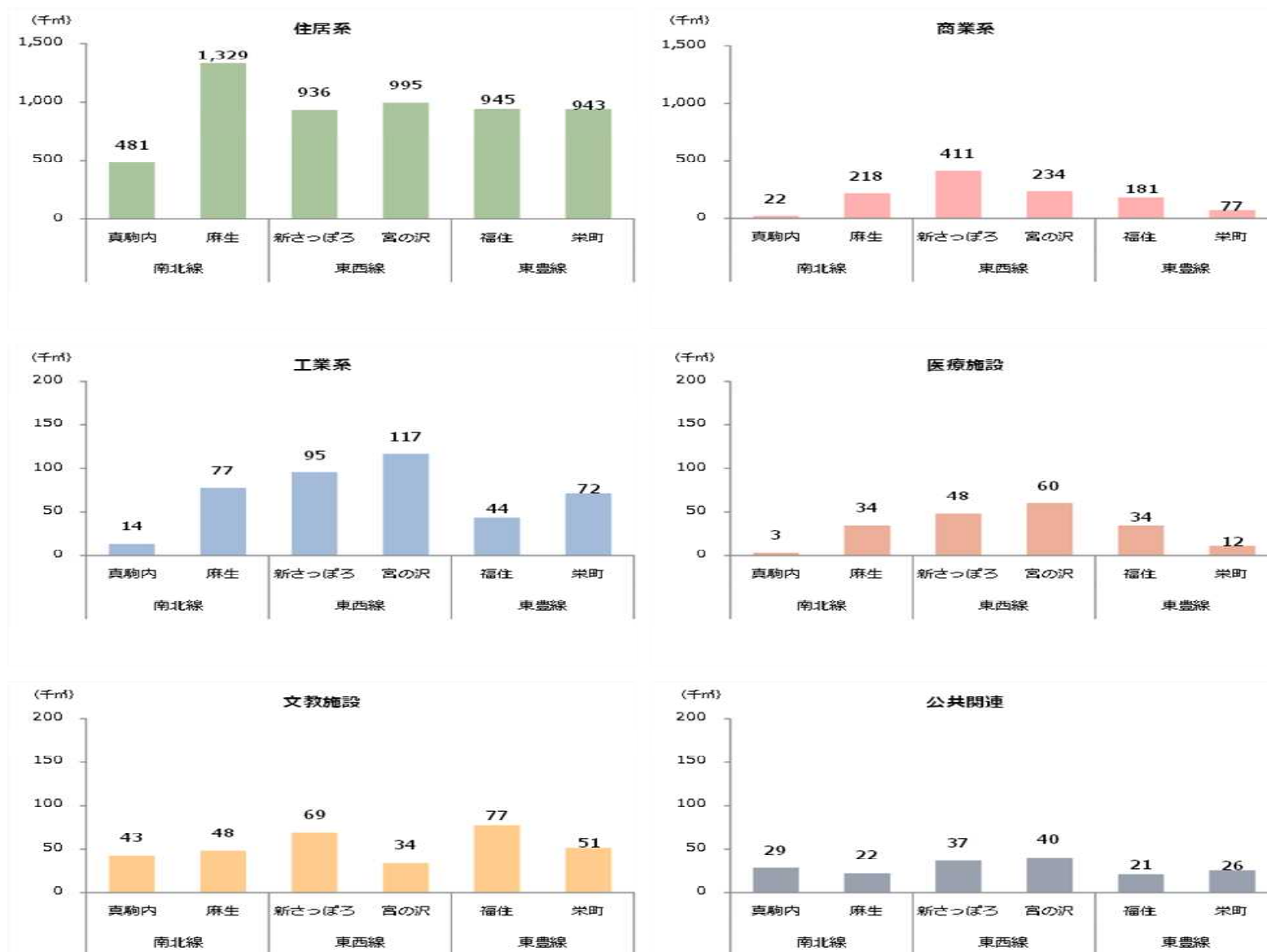
<始発駅の乗車人員比較>

始発駅の乗車人員の比較 (人/日)

| 路線 | 駅 | 乗車人員 |
|-----|-------|--------|
| 南北線 | 麻生 | 20,678 |
| | 真駒内 | 13,087 |
| 東西線 | 宮の沢 | 14,671 |
| | 新さっぽろ | 21,089 |
| 東豊線 | 栄町 | 8,322 |
| | 福住 | 16,126 |

資料：2019札幌の都市交通データブック

＜地域交流拠点の駅周辺（800m圏内）に含まれる施設の床面積＞



(出典) 札幌市都市計画基礎調査

意見交換

テーマ

「真駒内らしいにぎわいを創出するために」

～まずは交流広場での活動の定着、そして広域への展開に向けて～

- ① 将来の駅前地区を想像したとき、どのような事業や取り組みがあると、真駒内らしいにぎわい創出につながるのでしょうか？

【これまでいただいたご意見の一例】

真駒内の
周遊マップ

南区広域の
観光案内

マルシェ、盆踊り
などのイベント

チャレンジ
ショップ

レンタサイクル

雪あかり
アイスキャンドル

この交流広場を中心に、どんなことがしたいですか？
なにをやっていたら、参加したいと思いますか？

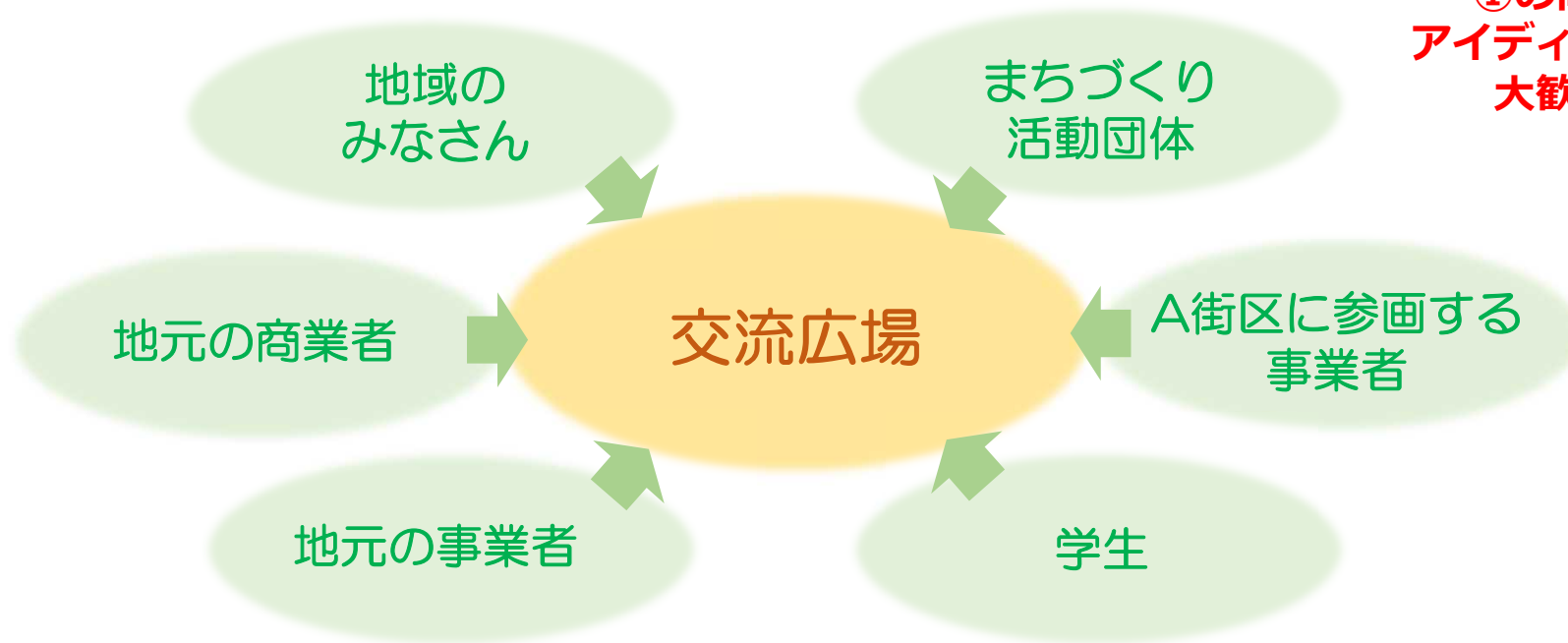
意見交換

テーマ

「真駒内らしいにぎわいを創出するために」

～まずは交流広場での活動の定着、そして広域への展開に向けて～

②それらの事業や取り組みを持続していくためには、
どのような仕組みづくり・役割分担が必要でしょうか？



①の問いの
アイデア追加も
大歓迎！